科学研究費助成事業

平成 3 0 年 5 月 7 日現在

研究成果報告書

機関番号: 14301 研究種目: 若手研究(A) 研究期間: 2014~2017 課題番号: 26706015 研究課題名(和文)酸素を利用した電子状態マッピングに関する研究

研究課題名(英文)study of electronic state mapping using oxygen

研究代表者

治田 充貴 (Haruta, Mitsutaka)

京都大学・化学研究所・助教

研究者番号:00711574

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 19,300,000円

研究成果の概要(和文):本研究は球面収差補正器を装備した走査型透過電子顕微鏡(STEM)と電子エネルギー損 失分光法(EELS)を組み合わせることで、遷移金属酸化物における酸素の電子状態マッピングを原子分解能で可視 化する技術を確立し、応用研究を行うものである。

電子状態マッピング実現のためには、原子分解能でS/Nの良NEELSスペクトルを得る手法開発が必要であり、本 研究においてはまずこれに取り組み手法を確立した。次に応用研究として、銅酸化物高温超伝導体におけるホー ル分布を原子分解能で実空間で可視化することに成功した。さらに、化学結合の異方性を反映したスペクトルを 原子分解能で測定することにも成功した。

研究成果の概要(英文): This research project intends to the realization of electronic state mapping of oxygen with atomic resolution using scanning transmission electron microscopy (STEM) and electron energy loss spectroscopy (EELS).First of all, we established a method for measuring high signal-to-noise ratio spectrum from individual atomic site without damage.Then, we succeeded for the first time in atomic-resolution two-dimensional mapping of holes in cuprate superconductors using an advanced technique. In addition, we have demonstrated the anisotropic chemical bond related to the difference between px and py orbitals was observed with atomic resolution.The results enables atomic-resolution anisotropic spectroscopy and is expected to give complementary information to the polarization-dependent X-ray absorption spectroscopy (XAS) which is widely used.

研究分野: 電子顕微鏡学

キーワード: EELS STEM 電子状態マッピング

1版

1.研究開始当初の背景

近年の電子顕微鏡法は、原子を見るだけ でなくその種類や状態をも分析するところ にまで研究が進んでいる。それを可能にす る手法が、走査型透過電子顕微鏡(STEM) と電子エネルギー損失分光法(EELS)の組 み合わせである。既に2007年には原子分解 能での元素マップが実現され、原子の位置 と種類が二次元で可視化できるようになっ ている。EELS の最大の利点はスペクトル の微細構造から電子状態の情報が得られる ことである。そのため、次のステージとし て電子状態の可視化が期待される。一方、 状態マップで重要なことは『どういう状態 を可視化するのか』という点である。本研 究では酸素のK殻電子励起スペクトルが多 彩な電子状態の情報を含むことから、これ を利用した原子分解能での電子状態マッピ ングの実現に向けた研究を行う。

2.研究の目的

(1)遷移金属酸化物におけるカチオンの組成 比を STEM-EELS と理論計算を併用して原 子分解能で抽出することを目的とした。

(2)原子分解能で電子状態マッピングを実現 するためには、S/Nの良いEELSスペクトル を各原子上から取得する必要がある。一方で、 電子線ダメージや装置の不安定性から現実 的にこれを行うのはこれまで困難であり、 様々な材料に応用可能な測定手法の確立を 目的とした。

(3)内殻電子励起スペクトルの吸収端端近傍 に現れる微細構造には非占有バンドの電子 構造が反映されるため、これを利用して材料 中にドープされたホールの分布を実空間で 原子分解能で可視化することを目的とした。

3.研究の方法

(1)球面収差補正器を装備した STEM と EELS を用い、プラウンミレライト型酸化物の $Ca_2Fe_{1.07}Mn_{0.93}O_5$ における6配位と4配位サイ トの金属元素(Fe と Mn)のサイト選択的な占 有率について原子分解能で定量を行った。そ の際、非弾性散乱電子の非局在性の効果を明 らかにするために通常よりも細かいスキャ ンステップによるオーバーサンプリングな 条件で実験を行った。

(2)CCD ノイズ低減のための研究ならびに、 試料ドリフトを非線形に補正しながら多数 枚の STEM-EELS データを足し合わせること で、S/N 比と電子線ダメージを低減する手法 の確立を(有)HREM 社の協力を得て行った。

(3) 高 温 超 伝 導 銅 酸 化 物 に 着 目 し、
 La_{2-x}Sr_xCuO₄における Sr ドープ量に依存した
 ホールの実空間分布の違いについて、上述の
 手法を適応することで原子分解能での計測

を試みた。

4 . 研究成果

(1)FeとMnは原子番号が一つしか違わないため、X線の散乱因子にほとんど違いが無く、 通常はこれらを分析する際には中性子線が 使われるが、本研究ではEELSを用いること でFeとMnの2p準位の違いを利用して、原 子分解能でサイト選択制を測定することが できた。また、オーバーサンプリングしたこ とで、原子直上で実験的な組成比が一定にな る部分があることがわかり、カチオン原子直 上1.2 の半径の範囲で分析すれば10%以下 の誤差範囲で原子分解能での組成分析がで きることが明らかとなった。(図1)



nm 1.0 1.5 2.0

図 1 (a) Ca₂Fe_{1.07}Mn_{0.93}O₅の HAADF 像(b) (a)の点線に沿って測定された HAADF, Fe と Mn の L 殻励起元素プロファイル,組成 比(Fe/Mn, Mn/Fe)プロファイル。

(2)

CCD ノイズの効率的な低減法を見出し、低ド ーズでも S/N の良いスペクトルを得ることが できた。また、Oxford 大で開発された非線形 の試料ドリフトに伴う画像歪補正法に加え て、広く観察された単結晶領域から結晶学的 に等価なサイトを自動的に見つけ出すプロ グラムを(有)HREM 社の協力を得て組み合わ せることで、一万カ所以上の領域のスペクト ルデータを効率的に現実的な時間で足し合 わせることができるシステムを構築した。

(3)

La_{2-x}Sr_xCuO₄における Sr ドープ量に依存した ホールの実空間分布の違いについて、構築し た手法を適応し、原子分解能で可視化を試み た。超伝導酸化物は一般的に電子線損傷に弱 いが、本手法を用いた結果、低ドーズ条件で 試料を壊すことなく、かつ S/N の良いスペク トルを原子分解能で測定することに成功し、 またスペクトルの微細構造を使った電子状 態マッピングにより原子分解能でホールの 空間分布を可視化することに成功した。また、 ホールのドープ量に依存してアンダードー プ側とオーバードープ側でホールの分布に 違いがあることを実空間で可視化すること ができた。(図2)さらに得られたスペクト ルには原子分解能で電子軌道の異方性が反

映されていることが明らかとなった。



図 2 La_{2-x}Sr_xCuO₄の構造モデルならびに ADF 像,ホールに由来する各ピークを用 いてマッピングしたホール分布像。

5.主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雑誌論文〕(計15件)

- 1. S. Chan, M. Liu, K. Latham, M. Haruta, H. Kurata, T. Teranishi and Y. Tachibana, Monodisperse and size-tunable PbS colloidal quantum dots via heterogeneous precursors, *J. Mater. Chem. C*, **5**, 2182-2187 (2017) (査読 有)
- 2. K. Hirai, R. Aso, Y. Ozaki, D. Kan, M. Haruta, N. Ichikawa, H. Kurata and Y. Shimakawa, Melting of Oxygen Vacancy Order at Oxide-Heterostructure Interface, *ACS Appl. Mater. Interfaces*, **9**,30143-30148 (2017) (査 読有)
- K. Shirai, T. Sugimoto, K. Watanabe, <u>M.</u> <u>Haruta</u>, H. Kurata and Y. Matsumoto, Effect of Water Adsorption on Carrier Trapping Dynamics at the Surface of Anatase TiO₂ Nanoparticles, *Nano Lett.*, **16**, 1323-1327 (2016) (查読有)
- D. Kan, R. Aso, R. Sato, <u>M. Haruta</u>, H. Kurata and Y. Shimakawa, Tuning magnetic anisotropy by interfacially engineering the oxygen coordination environment in a transition metal oxide, *Nat. Mater.*, **15**, 432-438 (2016) (查読有)
- 5. H-L. Wu, R. Sato, A. Yamaguchi, M. Kimura, <u>M. Haruta</u>, H. Kurata, T. Teranishi, Formation of pseudomorphic nanocages from Cu₂O nanocrystals through anion exchange reactions, *Science*, **351**, 1306-1310 (2016) (査読有)
- 6. <u>M. Haruta</u>, Y. Hosaka, N. Ichikawa, T. Saito, Y. Shimakawa, H. Kurata, Determination of Elemental Ratio in an Atomic Column by Electron Energy-Loss Spectroscopy, *ACS Nano*, **10**, 6680-6684 (2016) (査読有)
- 7. C-H. Tsai, S-Y. Chen, J-M. Song, M. Haruta

and H.Kurata, Effect of Ag Templates on the Formation of Au-Ag Hollow/Core-Shell Nanostructures, *Nanoscale Research Letters.*, **10**,438 (2015) (査読有)

- E. Baba, D. Kan, Y. Yamada, <u>M. Haruta</u>, H. Kurata, Y. Kanemitsu and Y. Shimakawa, Optical and transport properties of transparent conducting La-doped SrSnO₃ thin films, *J. Phys. D: Appl. Phys.*, **48**, 455106 (2015) (査読 有)
- 9. T. T. Trinh, R. Sato, M. Sakamoto, Y. Fujiyoshi, <u>M. Haruta</u>, H. Kurata and T. Teranishi, Visible to near-infrared plasmon-enhanced catalytic activity of Pd hexagonal nanoplates for the Suzuki coupling reaction, *Nanoscale*, 7, 12435-12444 (2015) (査読有)
- Y. Hosaka, N. Ichikawa, T. Saito, <u>M. Haruta</u>, K. Kimoto, H. Kurata, and Y. Shimakawa, Ca₂FeMnO₆: a layered double perovskite with unusually high valence Fe⁴⁺ in a layered arrangement, *Bull. Chem. Soc. Jpn.*, 88, 657-661 (2015) (査読有)
- 11. 阪部 周二, 倉田 博基,橋田 昌樹,時田 茂樹,井上 峻介,根本 隆,<u>治田 充貴</u>, 渡邊 浩太,電子顕微鏡の進化とレーザー 加速電子を用いた超高速電子線回折法, レーザー研究,43,138-143 (2015) (査読有)
- <u>治田 充貴</u>, STEM-EELS による高分解能 電子状態解析, *顕微鏡*, 49, 132-137 (2014) (査読有)
- D. Tanaka, Y. Inuta, M. Sakamoto, A. Furube, <u>M. Haruta</u>, Y.-Gi So, K. Kimoto, I. Hamada and T. Teranishi, Strongest π–metal orbital coupling in a porphyrin/gold cluster system, *Chem. Sci.*, 5,2007-2010(2014) (査読有)
- J. Kikkawa, S. Terada, A. Gunji, <u>M. Haruta</u>, T. Nagai, K. Kurashima and K. Kimoto, Understanding Li-K edge structure and interband transitions in Li_xCoO₂ by electron energy-loss spectroscopy, *Appl. Phys. Lett.*, **104**,114105 (2014). (査読有)
- 15. T. Nagai, <u>M. Haruta</u>, M. Kikuchi, W. Zhang, M. Takeguchi, K. Kimoto, Direct observation of atomic columns in a Bi-2223 polycrystal by aberration-corrected STEM using a low accelerating voltage, *Physica C: Superconductivity*, **500**,33-39 (2014) (査読 有)

[学会発表](計 16件)

 La_{2-x}Sr_xCuO₄ におけるホール分布, 治田充 貴、藤吉好史、根本隆、石塚顕在、石塚 和夫、倉田博基;日本顕微鏡学会第73回 学術講演会,2017/05/30

- 2. ADF-STEM 像コントラストの検出角依存 性,治田充貴、富崎友理子、根本隆、倉田 博基;日本顕微鏡学会第73回学術講演会
- 3. EELS マッピングと分析 現状、限界、 将来のニーズ,治田充貴; Thermo Fisher Scientific / マテリアルサイエンス分析技 術セミナー 最新の顕微鏡技術, 2017/09/13 (招待講演)
- 4. Distribution of electron hole in $La_{2-x}Sr_xCuO_4$; M. Haruta, Y. Fujiyoshi, T. Nemoto, A. Ishizuka, K. Ishizuka, and H. Kurata, 8th International Workshop on Electron Energy Loss Spectroscopy and Related Techniques (EDGE 2017) 2017/05/14
- 5. Studying Ordered Defect Structures in α -Fe₂O₃Nanowhiskers by Negative Spherical Aberration TEM and Monochromated STEM-EELS, Ming-Wei Lai, Mitsutaka Haruta, Takashi Nemoto and Hiroki Kurata; 日本顕微鏡学会第 73 回学術講演会, 2017/05/30
- Atomic Resolution Quantification of Elemental Ratio; Mitsutaka Haruta, The 11th Asia-Pacific Microscopy Conference, 2016/05/23, (招待講演)
- Determination of elemental ratio in an atomic column by STEM-EELS"; Mitsutaka Haruta, Yoshiteru Hosaka, Noriya Ichikawa, Takashi Saito, Yuichi Shimakawa, Hiroki Kurata, The 16th European Microscopy Congress, 2016/08/23
- Probing the directionality of local electronic states in SrTiO3 by momentum-selected STEM-EELS"; Atsushi Yamaguchi, Mitsutaka Haruta, Takashi Nemoto, Hiroki Kurata, The 16th European Microscopy Congress, 2016/08/23
- Accuracy of elemental ratio with atomic resolution in experimental STEM-EELS"; M. Haruta, The 11th Polish-Japanese Joint Seminar on Micro and Nano Analysis, 2016/09/12
- 10. 角度選択 STEM-EELS による局所電子構 造の異方性、山口睦、治田充貴、根本隆、 倉田博基;日本顕微鏡学会第72回学術講 演会、2016/06/15
- 11. EELS の基礎と応用, 治田充貴; 2016 年

JEOL ユーザーズミーティング, 2016/12/2 (招待講演)

- STEM-EELS による原子分解能定量評価, 治田充貴 保坂 祥輝,市川 能也,斉藤 貴 志,島川 祐一,倉田 博基;日本顕微鏡学 会 第71 回学術講演会,2015/05/14
- Local electronic structure Analysis for brownmillerite CaFeMnO_{2.5}, Mitsutaka Haruta, Yoshiteru Hosaka, Noriya Ichikawa, Takashi Saito, Yuichi Shimakawa and Hiroki Kurata; The 2nd East-Asia Microscopy Conference, 2015/11/24
- 金属酸化物における酸素の電子状態マッ ピング、治田充貴、長井拓郎、倉嶋敬次、 島川祐一、倉田博基、木本浩司;第61回 応用物理学会春季学術講演会 2014/03/17
- 15. STEM-EELS 法を用いた原子分解能での 電子状態解析, 治田充貴、長井拓郎、Lugg Nathan、Neish Melissa、Allen Les、倉田博 基、木本浩司;日本顕微鏡学会第70回記 念学術講演会, 2014/05/11 (招待講演)
- Atomic resolution electronic state analysis in La2CuO4", M. Haruta, T. Nagai, N. R. Lugg, M. J. Neish, M. Nagao, K. Kurashima, L. J. Allen, T. Mizoguchi and K. Kimoto; 18th Internationa Microscopy Congress(IMC2014), 2014/09/07

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕 ホームページ等

http://eels.kuicr.kyoto-u.ac.jp/Root/News/

6.研究組織
(1)研究代表者
治田 充貴 (HARUTA, Mitsutaka
京都大学 化学研究所 助教
研究者番号:00711574

)

^{4.}